



野坂 純子 議員

インクルーシブ遊具の導入を

前向きに導入に向けて検討する



インクルーシブ遊具で遊ぶ子ども

インクルーシブ遊具とは、体が障がいのある子ども、ない子ども、親も一緒に遊べる遊具である。

問 本町の認識と設置状況は。

答 建設部長▼子どもは、遊びを通じて、身体や精神、情緒、社会性など様々な能力を成長させる。誰もが同じ場所で、楽しむこと

ができるというインクルーシブの観点は、今後の公園整備において、必要な観点であると認識している。

現在のところ、特化した遊具を設置している公園はないが、相見の西屋敷公園（どんぐり公園）には、準じた幅が広い滑り台や車イスで遊べる高さに造られた砂場を設置した。

問 インクルーシブ遊具を中央公園に導入できるか。

答 来年度の中央公園の整備の中で、駐車場からのアクセスも含めて、前向きにインクルーシブ遊具の導入に向けて検討する。

GPS端末を選べる制度は

利用しやすい事業を研究したい

障がいのある子どもを持つ親が、GPSがあると安心できると話されていた。

問 GPSを利用した障がいのある子ども見守り事業は。

答 健康福祉部長▼特化した支援事業はないが、徘徊高齢者等探索支援事業の対象である知的障害者等に、適用できる。

問 問題は。

答 子どもが常に携帯するものとしては、適当とは言えないかもしれない。

問 利用者がGPS端末を選べる制度など、今後の取り組みは。

答 端末機の選択方法、補助金事業への変換など、近隣市町での動向に注視し、アンケート調査の結果も参考に、利用しやすい事業を研究したい。

不登校期間の学習成績の評価は

関係機関と連携を図り検討する

問 文部科学省は増加している不登校の総合対策「COCCOLOプラン」を策定。その内容は。

答 教育部長▼不登校により学習にアクセスできない子どもたちをゼロにすることを目指す。

問 不登校期間の学習成績の評価反映はどのような形で進められているか。

答 教育相談室へ通う児童生徒と学校外の適切な学習環境であると判断された施設へ登校した場合は、出席扱い。今後も評価について検討していく必要があると考える。

問 相談窓口の整備など保護者への支援の今後は。

答 児童生徒の状況に応じた社会的自立の支援ができるよう、関係機関と連携を図りながら、児童生徒及び家庭への支援をしたい。



丸山 千代子 議員

子どもの権利条例の具体化を

子どもの居場所は最重要課題



問 幸田町に暮らして育つ子どもたちの最善の利益の保障は。

答 住民子ども部長 子どもにも最もよいことは何であるかを第一に考えていく。

問 子どもの権利を学ぶ機会と、声を聞く場はあるか。

答 子どもと大人の合同ワークショップを開催。高校生・中学生が子ども会議で行動目標を発表している。

問 子どもが意見を表明しやすい環境を。

答 教育長▼児童会、生徒会活動で意見表明する機会がある。まちづくりなど、社会科や総合的な学習ができるよう啓発していく。

問 遊びや体験の場、中高生の居場所など、子どもの権利条例の具体化をする施策を。

答 住民子ども部長 子どもの居場所は最重要課題。子どもが自分の意見表明する環境を充実させていく。

防火水槽の耐震化整備を

新規の設置は耐震化水槽整備

問 消防水利の基準は。

答 消防長▼商業、工業地域は半径100m、住宅地は半径120m以下の設置。消防水槽は、給水能力が常時貯水量40m³以上。

問 消防水利の充足率は。

答 80%。

問 防火水槽の全体数と町有地、民地の設置数は。

答 207基。町有地94基、民地80基、他33基で全てが無償借地。

問 民地の借地解消を。

答 過去に区要望で設置した。地権者の意向と区との協議で、借地解消を進めていく。

問 老朽化した防火水槽の耐震化整備を。

答 非耐震性水槽66基は引き続き点検。新規設置は耐震性防火水槽を整備していく。

河川愛護の草刈り負担の解消を

舗装し草刈り面積を少なくする

問 河川愛護の草刈りが高齢化で負担となつている。現状は。

答 建設部長▼河川の草刈りは、河川愛

護活動、土木業者、親切班で対応。近年の問題として、土木業者の人手不足で受注が困難になっている。

問 市街化と調整区域の川役の不公平感の解消を。

答 1人当たりの草刈りが、市街化は約1m、調整区域は約40m。負担軽減のため、

管理道路の舗装で草刈り面積を少なくする。

問 河川ボランティアの把握と支援を。

答 実態は把握していない。方策を研究。

問 水辺に親しむ取り組みのため、尾浜川に親水ゾーンを。

答 親水ゾーン設置の手法等を検討する。



ボランティアによる草刈り作業